



# 改憲「坂の上の雲」目指し議論を

平成24年12月に第2次安倍晋三政権が発足して5年目を迎えました。これまで与野党が対立する難しい仕事があれば前線に立つのが私の役目だと思ってやってきた。首相補佐官としては特定秘密保護法や平和安全法制(安全保障関連法)の整備で、農林水産副大臣として環太平洋戦略的経済連携協定(TPP)の国会承認などですね。

## 首相とは15年前から

安倍さんとの出会いは、私が役人時代の14年でした。安倍担当の内閣参事官になったとき、安倍さんは官房副長官でした。国会答弁の原稿を私が書くこともありました。19年の参院選に当選した後、安倍さんと同じ自民党派閥の清和政策研究会(細田派)に入りました。

## 自民・磯崎陽輔農林水産副大臣 (昭和32年生まれ)



(斎藤良雄撮影)

だった町村信孝先生(前衆院議長、27年死去)を推しましたから。私は派閥内で微妙な立場になりましたが、安倍さんとの関係は深まりましたね。昨年の臨時国会でTPP承認案・関連法案が成立し、大きな仕事は一段落したので、今年は落ち着いて政策に取り組みたい。通常国会では、農業の競争力強化を目指す改革関連法案の成立を目指します。

TPPは発効に向け、米国の参加を慌てず、粘り強く促していきます。トランプ大統領がすぐに方針転換するとは思えない。でも、TPPは20年かけて関税を撤廃するな

「憲法改正というのは、針の穴にラクタを通すよりも難しい」。保利耕輔元憲法改正推進本部長は聖書の言葉を引用し、こうおっしゃった。自民党など改憲勢力が衆参両院で国会発議に必要な3分の2

に落ち着いて取り組む1年になるでしょう。今は政府の一員であり、今後の話をできる立場ではありません。ただ、党内で改正準備作業に携わってきた人間として、一部野党が改正が必要か否かという議論に後退してしまっただけに違和感を覚えます。

## 政権の難題 前線に立つのが役目

を獲得していますが、強引には進められない。改正が必要な項目について他党と広範な合意を見つけ出さなければ改正はなしえない。非常に難しい作業ですが、見つけ出さなければならぬのです。私も党の役職に戻ることがあれば最大限努力します。

「現行憲法でも不便はないではないか」との意見もありますが、憲法というのはそういうものではない。

将来を見据え、国家の方向付けをする。まさに「坂の上の雲」なんです。坂の上の雲を目指し、真摯に議論を進めていくべきです。

◇ (田中一世)

今年は「政治の転換点」といわれる西暦。西暦生まれの国会議員に焦点を当てた連載「羽ばたけ!!年男・年女」は今回で終わります。これまでの連載は「産経ニュース」に掲載されています。